



全体的な感想

私は AIMS プログラムを通じ、単純に勉強だけではなく、東南アジアの文化について学びました。チェンマイ大学ではタイ人学生だけでなく、他のプログラムで訪れていた東南アジア人学生とも交流することができました。農学的な分野にはあまり触れることはできませんでしたが、チェンマイという一つの町の中で、幅広いコミュニティを築きました。留学により、一人の人として成長することができたと感じています。

履修科目

Fundamental English 1 (3 単位)

Thai in Everyday Life 1 (3 単位)

General Agriculture (3 単位)

Economics for Everyday Life (3 単位)

授業から学び得た専門的な内容について

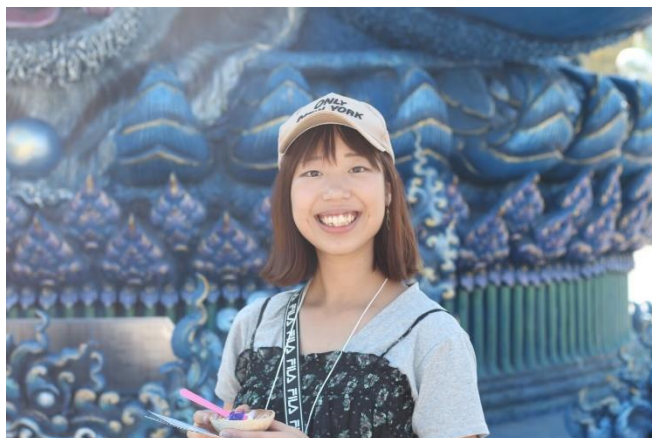
基礎英語、日常タイ語、一般農業、日常経済の 4 つを履修した。基礎英語の内容はこちらの総合英語と似通っていたが、教科書がイギリス英語であることや、日本では取り組んだことのないロールプレイを行った。ロールプレイでは授業で学んだ文法や単語を使用した脚本を自分たちで作り、それぞれの役を演じる、というものだった。日常タイ語は会話が中心であり、授業の終盤でタイ文字を習った。加えて授業中にタイの文化を紹介する目的で料理を行ったり、伝統的な踊りや歌の練習をした。一般農業は 4 つの中では一番専門分野に近い農学的な授業であったが、履修者が茨城大学の 3 人だけだったため、授業のスピードはとても速かった。内容としてはタイにおける農業が中心であり、熱帯果樹や、少数民族による農業、前国王による取り組み、農業に纏わる祭事、その他工業や経済等々、広範囲にわたった。最後の日常経済は一般的な経済入門の授業であった。この授業は日本の多くの授業と同じく、授業のスライドが配られ、それに基づいて学んでいくやり方であった。そのため一番取り組みやすい授業形体であったが、特筆するような専門的なことは無かったため、日本でも似たような学習はできると思われる。総合的には日常タイ語と一般農業の 2 つはタイ特有の授業であり、新たなことを学ぶ機会であったと感じた。

自らの専門分野との直接的または間接的な関連性について

ほとんどの授業は教養科目だったため、自分の分野とはあまり関連が無かった。一般農業が一番専門に近かったが、タイの農業について浅く広く紹介する授業だったため、あまり専門的ではなかった。しかし熱帯果樹は見たことが無いものが多く目新しかった。研究に活かすことは難しいが、異文化に対する教養としては新しい知識が手に入ったと考えている。個人的には公務員への就職を志望しており、日常経済もいつか生かす機会があれば良いと思っている。

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点

私は英語力にあまり自信がなく、先生によっては訛りもあったため聞き取りに苦労した。訛りの度合いは担当の先生により大きく異なった。そのため予習復習を心掛けた。幸いチェンマイ大学の周辺には勉強のできるカフェが多数立地しており、物価の安さも相まって毎日のように訪れて勉強時間を確保した。またタイ人学生はテストの約2週間前から勉強に集中する人が多く、モチベーションを得ることが出来た。留学の終盤には大分英語を聞き取れるようになったと実感した。



全体的な感想

私は AIMS プログラムに挑戦する際に、何事にも臆病にならず、少しでも「楽しそう！」と自分の気持ちが動いたら、とにかくチャレンジすることを目標にしていました。全く知らない土地で、これまでの自分の殻を破りたいという一心で留学生生活を過ごしたことで、新たな経験ばかりの毎日はとても刺激的で、約4か月の期間が本当にあっという間に感じました。チェンマイ大学は、バディ制度やさまざまな交流活動など留学生へのサポートが手厚く、多くの人と出会い、交流することができます。人の温かさ、食べ物、気候、すべてを踏まえて私はチェンマイに来て良かったと心から思っています。

履修科目

Fundamental English 1 (3単位)

Thai in Everyday Life 1 (3単位)

General Agriculture (3単位)

Psychology and Daily Life (3単位)

授業から学び得た専門的な内容について

英語の授業では、リーディングだけでなくスピーキング、リスニング、ライティングなど総合的な観点から、英語をより日常的に使用できるようにカリキュラムが組まれていた。そのため英文を読み、自分の意見を話し、実際に文章で書くなど、実践的な内容であった。

心理学の授業では、感情や性格、セルフコントロールなどの基本的な内容に加えて、タイ人のジェンダーに関する現状や課題など興味深い内容も学ぶことができた。

タイ語の授業では、日常生活で使用される会話のスピーキングに加え、タイ文字を習うことができ、街中で見かけるタイ文字が読めるようになるなど、より実生活に活かされる内容であった。

農学基礎の授業では、マクロな視点からみた農学にまつわる内容だけでなく、熱帯地域に属するタイの地理学から、タイで行われている農業、そこで起こっている問題、行われている対策や今後の展望など幅広い内容であったため、タイの農業に対してより深く学ぶことができた。タイでは食品安全への意識が、自分の想像よりもはるかに高く、レストランだけでなく街中の小さな食堂や屋台でも、使っている食材の安全性を証明したマークが貼られていることを知り、そういった食品安全の制度が進んでいることを実感した。

自らの専門分野との直接的または間接的な関連性について

専門分野から教養的な科目の授業に関しても、どの授業も英語で行われているため、英語を聞き取り、読み、書き、話すという能力が身についた。これは今後の研究活動においても、海外の英語論文を読み取り、自分で執筆する際に役立つと考えられる。また、専門分野に関しては、熱帯地域であるタイの農業の特徴や日本の農業との比較など、授業や実生活で身をもって体験することができた。これは日本にいただけでは知ることができない点だと考える。

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点

スライドやレジュメが事前に Facebook にアップロードされているため、授業の前に読んでおき、ある程度内容を理解しておくようにした。そうすることで授業中は、教授の話に集中することができ、内容も把握しているのでより理解が深まるように感じた。復習に関しては、ノートに学んだことをまとめ、さらに疑問に思った点は参考文献から調べることで、習った内容の定着とより深い理解につながった。日本と比べて、自分の意見を述べる事が多かったため、授業を聞きながら自分の場合はどう考えるか常に考え、集中する必要があった。



全体的な感想

バンコクから飛行機で約1時間、タイ北部に位置するチェンマイ県にあるチェンマイ大学に留学しました。大学では、農業の授業のほか、経済やタイ語など幅広い分野の授業を受講しました。また、留学生向けのワークショップやイベントなども豊富で、タイだけでなく近隣のインドネシアやマレーシア、ブルネイなど多くの国からの留学生と交流することができました。日本では使う機会の少ない英語を苦戦しながらも使ったり、留学生と一緒に遊びに行ったり、馴染みのない文化と触れ合ったりといった経験は、AIMSプログラムに参加しなければ確実に得られなかったもので、私の財産であるといえます。これからの大学生活、社会に出てからの生活を、この留学を経て学んだことと共に頑張っていけたらと思います。

履修科目

Fundamental English 1 (3単位)

Thai in Everyday Life 1 (3単位)

General Agriculture (3単位)

Economics for Everyday Life (3単位)

授業から学び得た専門的な内容について

農業の授業において、タイの農業に関して幅広く、様々なトピックについて学んだ。生態系や食物連鎖に加え、作物に関しては、それらの進化の過程や、トロピカルフルーツなど日本ではあまり栽培されない作物の種類を学んだ。地理関連では、地形がどのように人々の生活に影響しているかや、地方ごとに異なった特産物等を学んだ。ほかにも、社会学と関連して、地方には地方の農業に関する知識が存在すること、部族によってはアヘンを生産していることなどを知った。また、タイ国内の農業の発展・進化するのときに重視されていたことを学んだ。その中には、日本でも聞いたことのある GMO や有機農業、食の安全などが含まれていた。また、自分の専門分野に近い市場や政策に関しても、市場の構造や価格に関する政策を学ぶことが出来た。そして、全体を通して印象的だったのが長く続いている「タイの経済と社会発展の計画」である。これは、5年ごとに改められていて、2019年は第12弾に含まれる。内容としては、この期間は〇〇を実行するといった具体的な計画が書かれていた。また、AEZs という農家に向けた政策について、その効果や日本に似たような政策があるかなどの疑問を持ったので、今後調べてみたいと感じた。

自らの専門分野との直接的または間接的な関連性について

自分の専門分野では、農政の歴史や内容を、経済学などを踏まえて学ぶ機会が多いが、経済の授業で得た経済学の基本的な用語や現象などの知識は、当時の日本経済がどのように農業へ影響を及ぼしたかなど、政策の背景を学ぶ際に活かされると考えています。また、農業の授業で学んだ地理やタイで広く栽培されている品目、世界の社会情勢の中で起こっていた農業に関する現象の知識は、今後、タイを含めた海外と日本との比較ができたら良いと考えるようになりました。

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点

予習として、テキストやプリントの中で意味が分からない単語やフレーズがあった場合は、事前に辞書で調べ、授業中に困ることがないように努めた。また、言語を学ぶ際は、友人同士で問題を出し合って意味や発音を確認し合って理解を深めた。教養科目においては、その分野を専門科目として学んでいる現地の友人に助けをもらいながらテスト対策等をした。また、日本と比べて、生徒が先生の問いかけに対して答える場面が多く存在したので、母国語ではないこともあり、かなり注意深く話を聞いていた。